

祖父面影に涙の抱擁

宮里さん、比残留親族と対面

【バンコク共同】太平洋戦争前にフィリピンに渡った日本人と現地女性との間に生まれた残留日系2世と、沖縄の親族が16日、フィリピン南部ミンダナオ島ダバオで、待ちわびた対面をようやく果たした。「こんなに長く待たせてしまい申し訳ない」。日本の親族は涙を流しながら、祖父の面影が残る2世の女性を何度も抱きしめた。

日本国籍取得支援へ

現地を訪ねたのは南城市の宮里強さん(54)といところ計4人。ダバオ空港でコンチータ・バシランさん(73)ら約20人が待ち受けた。「初めまして」「お会いで

きてうれしいです」。互にあいさつを交わすと双方とも言葉が出なかった。宮里さんの祖父源一さんは戦前、ミンダナオに移住して結婚、コンチータさん

らを残し終戦直前に亡くなった。宮里さんは源一さんが日本に残した家族の系譜になる。

父親から、フィリピンの親族の話聞いていた宮里さんは約18年前、ミンダナオを訪問する計画があったが、現地の治安情勢が悪く、マニラ首都圏まで足を運ぶながら断念した。

コンチータさんは日本国籍を求める手続きを近く始める。宮里さんは「できる限りの支援をしたい」と話している。残留日系人を支

援する団体、NPO法人「フィリピン日系人リーガルサポートセンター」(東

京)によると、戦争でフィリピンに取り残された日系2世は約3千人に上る。



16日、フィリピン・ダバオ空港で、残留日系2世のコンチータさんと握手して涙ぐむ宮里強さん(左) (日本財団提供・共同)